

第18節 安全性

	項 目	概 要
調 査	交通の状況	調査目的 事業予定地周辺における交通状況の把握 既存資料の収集整理 [調査事項] 道路、病院・学校等の配置、コミュニティ施設の状況及び交通安全の状況 [既存資料] ○「平成11年度 道路交通センサス報告書 全国道路交通情勢調査」(平成13年3月 国土交通省中部整備局 道路部) ○「学区別生活環境調査報告書(平成9年版)」(平成10年 名古屋市) ○「平成16年中 名古屋市内の交通事故」 (平成17年 名古屋市市民経済局) 現地調査 [調査事項] ○交通量 ○交通安全設備の確認 [調査方法] ○自動車交通量 数取器を使用し連続して交通量を調査する。 車種分類は、小型車類(乗用車、小型貨物車)、大型車類(普通貨物車、バス)とする。(なお、ASJ2003モデルで使用できる分類で調査を行う) ○歩行者交通量 数取器を使用し連続して調査する。 ○交通安全設備の確認 現地踏査により調査する。 [調査地点] (図4-18-1 参照) A地点 : 名古屋市港区汐止町12番地 ニチハ(株)名古屋工場敷地境界 B地点 : 名古屋市港区空見町1番地の6 東邦ガス(株)空見環境センター敷地境界 [調査期間] ○交通量 〈通常時〉国際展示場で催事が行われていない (平日)平成16年 1月21日(水) 6:00 ~ 22:00 (休日)平成16年 1月25日(日) 6:00 ~ 22:00 〈混雑時〉国際展示場で催事が行われている (休日)平成16年 5月 3日(月) 6:00 ~ 22:00 ○交通安全設備の確認 平成17年 10月20日(木)
予 測	工 事 中 交通 安全等 への 影響	[予測事項] ○発生集中交通量 ○交通安全への影響の程度 [予測条件] 図2-2-10(P19)に示す工事関連車両の通行ルート [予測方法] 工事計画から推計 [予測地点] 事業予定地東側の出入口部3箇所(図4-18-2(P134)参照) [予測時期] 工事関連車両の交通量が最大となると考えられる時期 (土木・建築工事時)

1 調査結果の概要

(1) 交通量

通常時平日及び混雑時休日が通常時休日よりも交通量が多い。また、断面交通量では、南北方向の交通量が多い状況である。

歩行者は、A 地点が B 地点よりも多く、また、全体交通量に対する歩行者・自転車の占める割合も大きい。

また、事業予定地周辺は、ほとんど歩行者がいない状況である。

(2) 交通安全設備の確認

事業予定地西側の道路は、中央分離帯のある片側 2 車線の道路が整備されており、道路西側の海側に歩道が整備されているが、東側には歩道が整備されていない。よって、事業予定地に面した西側においては歩行者と車両の交錯は生じない状況である。

事業予定地北側の道路は、道路北側の歩道帯が縁石により分離されており、南側には、歩道が整備されていない。よって、事業予定地に面した北側においては歩行者と車両の交錯は生じない状況である。

事業予定地東側の主要地方道金城埠頭線は、中央分離帯のある片側 3 車線道路であり、道路両端に歩道が整備されている。また、事業予定地前には横断歩道が整備され、バス停が設置されている。

事業予定地に面した東側においては、歩行者と車両との交錯が生じる可能性がある。

2 予測及び評価（工事中）

2-1 交通安全等への影響

(1) 予測結果

図 4-18-2 で示す往路第 1 ルート走行時において、大型車と歩行者等の交錯が最も多い箇所は、C 地点であり、その発生集中台数は、47 台/時と予測される。また、朝夕の通勤時には乗用車のピークとなり、その発生集中台数は、全ての地点で 126 台/時と予測される。

往路第 2 ルート走行時は、復路の B、C 地点で歩行者等と交錯し、その最大発生集中台数は大型車で 24 台/時、乗用車は 126 台/時と予測される。

(2) 環境の保全のための措置

- ・ 通勤車両、資材の搬入車両が極端に集中しないよう搬入時期・時間の分散に努める。
- ・ 工事関連車両の運転者に対しては、交通規則の遵守及び安全運転の徹底を図る。
- ・ 工事関連車両の主要な出入口は、交通整理員を配置し、歩道での歩行者の安全を確保する。なお、危険のないように路面の段差への配慮等の対策を講じる。
- ・ 道路占有に関して作業区域は防護さく等で囲み、範囲を明確にする。

(3) 評 価

往路第 1 ルート走行時は、大型車の最大発生集中台数は 47 台/時、乗用車の最大発生集中台数は 126 台/時と予測される。また、往路第 2 ルート走行時は、大型車の最大発生集中台数は 24 台/時、乗用車の最大発生集中台数は 126 台/時と予測される。

したがって、工事予告表示等は警察等と協議を行い、道路利用者が遠方より確認・迂回する事ができるような場所に設置することから、工事関連車両の走行に伴う交通安全等への影響は軽微であると考ええる。

また、工事関連車両の走行ルートを 2 ルートに分散し、工事関連車両の運転者に対しては交通規則の遵守及び安全運転の徹底を図り、工事関連車両の主要な出入口には交通整理員を配置する等の措置を講じることから、工事関連車両の走行に伴う交通安全等への影響は低減できるものと判断する。

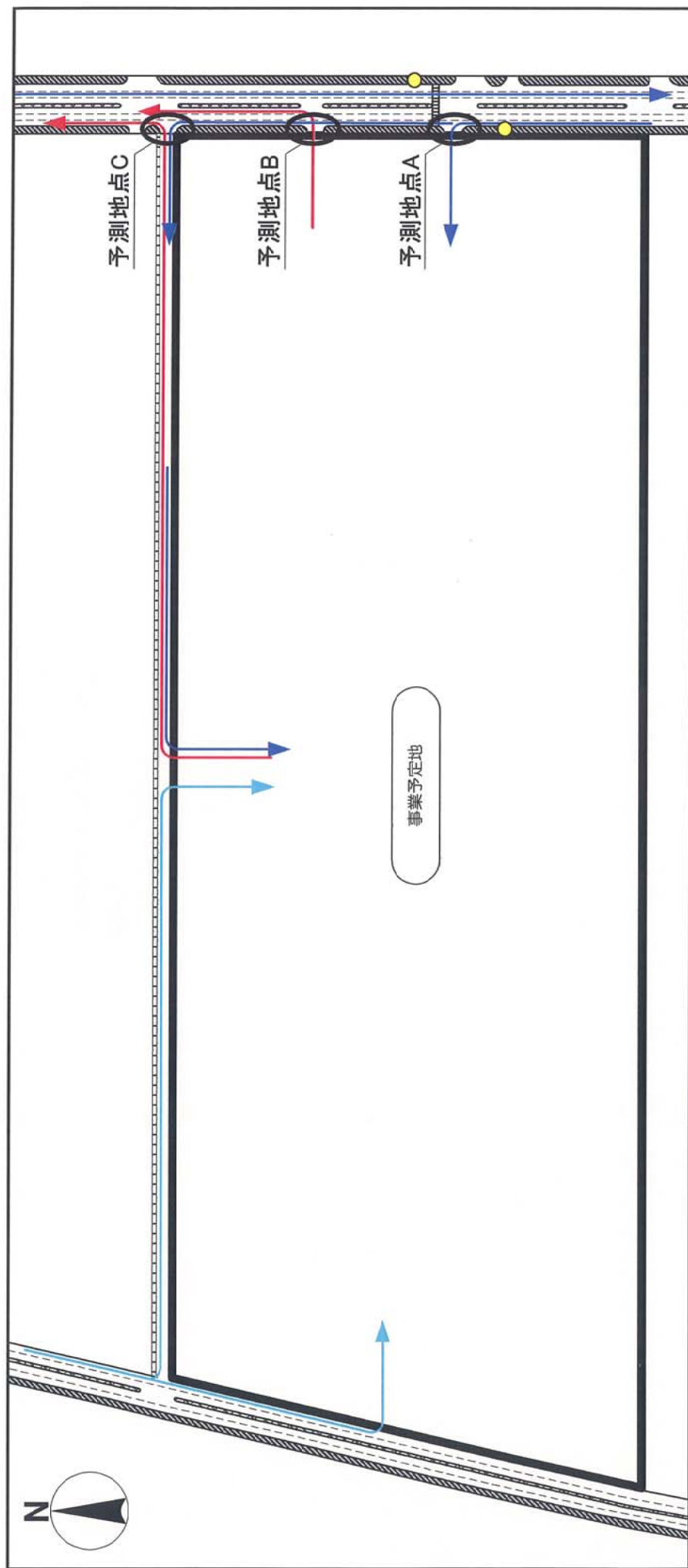


図4-18-2 予測地点図

